

2022 年とら年（壬寅）風水吉凶方位（2022 年 2 月 4 日～2023 年 2 月 3 日）

総評：本年は年星である五黄が方位の中央に来ます。五黄は土に属し、正閏サツなので、動きを与えると災いが発生する。太歳・歳破と重なると災いが頻繁に発生する。五黄と太歳の方位は陰宅・陽宅ともに工事、改築など「動き」の生じる事は行わない方がよい。やむを得ない場合は、風水の専門家に相談すると良いでしょう。五黄が来る場所が、平坦な場所であれば病、平坦でない場所はケガ、車が行き交うところでは交差点で、車が旋回するところ、地下鉄の出口、空港、棧橋などでは事故が発生しやすくなります。したがって、今年の吉方位は三つしかありません。五黄が中央に来るため、商店、工場、オフィスなどの中央などでは動きのある物は極力さけ、本棚、タンス、など人が行き来できないように工夫すると良いでしょう。五黄と一白の組合せでは、一白は学生を表しますので、勉学に困難が生じ、志を遂げられない恐れがあります。性病に注意。五黄と二黒の組合せでは、一家の主が大病を患う可能性があります。年長者などに注意を払う必要があります。五黄と三碧の組合せでは、三碧木が五黄土を剋するため、五黄の気が逆流して災いがより強烈になります。五黄と四緑の組合せでは、四緑は乳房・肝臓を表すため、乳房と肝臓の病気に注意しなければなりません。五黄と六白の組合せでは、五黄土が六白金を旺盛にします。本来、六白は財運の星ですが、すでにその力を失っているため、財運は期待できません。五黄と七赤の組合せでは、五黄土が七赤金を旺盛にします。七赤は凶の星で、のどをあらわします。五黄と重なることでのどの疾患の恐れがあります。五黄と八白の組合せでは、双方共に土に属します。現在は下元八運のため、八白の方が強く、五黄の凶性を抑えることができます。ただし、風水的環境が悪く、月の運勢が良くなければ五黄の凶性を抑え切れない状況をもたらします。五黄と九紫の組合せでは、どちらの力が強いかによって、吉凶が分かれます。九紫が強ければ良いことが訪れますが、良いことのなかに凶が潜んでいる場合があります。

陰暦・西暦の対応表	
陰暦	西暦(陽暦)
1 月	2022年2月4日～3月4日
2 月	2022年3月5日～4月4日
3 月	2022年4月5日～5月4日
4 月	2022年5月5日～6月5日
5 月	2022年6月6日～7月6日
6 月	2022年7月7日～8月6日
7 月	2022年8月7日～9月7日
8 月	2022年9月8日～10月7日
9 月	2022年10月8日～11月6日
10 月	2022年11月7日～12月6日
11 月	2022年12月7日～2023年1月5日
12 月	2023年1月6日～2023年2月3日

注：立春が一年の分岐点となります。

本表は二十四節気で陰暦月を計算しています。

本年の吉凶方位：

吉方位：北・南・東北・東南・北西

凶方位：中央・南西・東・西

東南	南	南西
四緑／小凶[文昌位]	九紫／吉方[喜慶]	二黒／凶方[病符位][歳破(申)]
<p>四緑は文昌を司ります。試験、勉強運、昇進をもたらします。これをより強力にするには水晶文昌塔、銅文昌塔、緑玉文昌塔など、或いは丸い容器に水を入れて、この方位に置きます。四緑は生まれが九紫の人に最も有利ですが、二黒、五黄および八白の人には不利。</p> <p>陰暦12月、6月、9月は二黒と五黄が前後して来るため、災いや病気をさけるため風鈴をかざると良い。陰暦8月は三碧が来るため、トラブルと破財をさけるため赤色系のものを置いて化サツしましょう。</p>	<p>九紫は吉慶の星です。未来の生気を代表し、異性運、結婚、出産、昇進など喜ばしいことを表す。この方位のエネルギーを強化するには、この方角に紫水晶を置く。異性運には銅花瓶とローズ水晶。健康、出産には玉山を置く。家運をよくするには、一對の銅麒麟背銭。受験、昇進には文昌塔を置く。九紫は生れが八白、二黒、五黄の人に有利。七赤と六白の人には不利なので、黄色系のものを置くと良い。陰暦2、11月は病気をさけるために五層の風鈴をつると良い。陰暦4月は火災に注意し、黄色系のものを置くと良い。</p>	<p>二黒は主に疾病、婦人科病、消化器疾患などを表す。さらに風水的環境が悪く、月の運勢が良くなければ重大な病気にかかり、手術する可能性が高くなる。この方位は一白生れの人に不利である。回避するには以下の方法がある。一對の麒麟あるいは銅の葫蘆を置く。安忍水を置く。六帝古銭または圧サツ銭を置く。八卦銅銭を9個置く。銅風鈴をつるす。入り口を白色、銀色或いは金色にする。蝙蝠のものを吊るす。陰暦4、7月はとくに凶になるので、銅鐘あるいは龍鐘をつるし朝晩 6 回鳴らすと良い。陰暦6月はトラブルをさけるため赤色系のものを置くと良い。金魚鉢、植物などは余りよくない。また歳破なので改装や工事などは避ける。</p>

東	中央(年星)本年の全体運	西
<p>三碧／大凶 [是非位]</p> <p>三碧方位はトラブル、訴訟、破財、盗難を表す。赤色系の布、カーペットを敷くか、赤い電灯をつけてこれらをさける。この方位には金魚鉢、扇風機を置くのは避けます。この方位は九紫生まれの人に対して有利です。二黒、五黄および八白生まれの人に対して良くありません。赤色系のものを置いてさける。陰暦5月、8月は転んだり、手足のケガ、病気に注意。五層風鈴を吊るすと良い。また、訴訟、空き巣、強奪などに注意し、銭剣などを吊るすと良い。陰暦3月12月は破財、トラブルのおそれがあります。麒麟や赤色系のものなどを置くと良い。陰暦1月、10月は火事に注意し、黄色系のものをおく。ただし、その月が過ぎたらすぐに取去る。また歳破なので改装や工事などは避ける。</p>	<p>五黄／凶方 [五黄サツ]</p> <p>この方位は本年の大凶方位。五黄は大サツとよばれ、すべての災い、病気、早死に、滞り、失敗などはこの方位によってもたらされる。本年この方位では、改装や工事など、動きをもたらすことは行わないようにしましょう。動きがあると五黄のエネルギーが強化され、災いを引き起こす。この五黄をさけるには五層銅風鈴あるいは小さな羅盤を吊るす。また赤系統のものをさける。陰暦1月、7月、10月は方位の組み合わせが最も凶となるので、銅鐘あるいは龍鐘をつるし、毎日朝晩六回ずつ鳴らす。また家内安全には銅麒麟4匹、六帝古銭と銅風鈴1個を吊るすと良い。陰宅の坐山がこの方位なら改築は延期が良い。</p>	<p>七赤／凶方</p> <p>七赤は衰退のサツ。盗賊、色事、名声に溺れるなどを表す。一白と重なると横暴を助長する。この方位では大規模な工事、建築、神社仏閣、とがった建物や赤い物は禁忌です。いったん火災が発生すると收拾が付かなくなる恐れがあり。三碧と四緑生れの人には不利なので、青色系のものを置くと良い。陰暦8月は兄弟、パートナー、友人と反目しやすくなる。避けるには梅花銭を机やカバンにしのばせると良い。陰暦2月、11月は三碧が来るので、破財、トラブルを避けるため、赤色系のものや麒麟などを置くと良い。</p>
<p>東北</p>	<p>北</p>	<p>北西</p>
<p>八白／吉方 [財位] [太歳(寅)]</p>	<p>一白／小吉 [桃花位] [三サツ]</p>	<p>六白／小吉 [駅馬]</p>
<p>この方位は財運方位です。財運、事業拡張、起業、昇進、出産など良いことを表す。一白生れの人には不利なので、白色系のものを置くと良い。八白は陰暦6月にもっとも旺盛となる。パワーアップするには、赤色系のものを置く、あるいは赤い金魚を9匹飼う。横財力を高めるには、2つのヒキウに旺財物(黄水晶、水晶玉など)を加えて置いたり、龍亀、八白玉あるいは五帝古銭などを用いる。陰暦2、3、11、12月には子供のケガ、夫婦不和、腰の病に注意、赤色系のものを置くと良い。陰暦1、10月は五層風鈴を掛け、4月は六個の銅銭を吊るすとよい。通年で植物類を置くのは良くない。太歳はこの方位に来るので、圧歳銭を置くと良い。</p>	<p>一白は桃花(結婚、恋愛運)、旅行、移転、盗賊を表します。桃花運を高めるには、この方位に銅花瓶とローズ水晶などを置く。桃花サツ(浮気など)を避けるには、銅ヒョウタン、銅鶏を置く。家運を良くするには、麒麟を置き、思考力を高めるには、文昌塔を置く。この方位は三碧と四緑生れの人に有利。二黒、五黄と八白生れの方は桃花運、財運、旅行、移転に有利です。六白、七赤、九紫生れの人には不利。陰暦5月はトラブル、泥棒に注意。赤色系のものと圧さつ銭を1つ置くと良い。男性は女性に騙され易いので、六帝古銭を吊るし災いをさける。陰暦6月は病気の星が来るので、風鈴をつるし災いと病をさける。三サツのためこちらに座らないほうが良い。避けるには、麒麟を三匹おく。逆に三サツに向うように座ると吉。</p>	<p>六白は財運の星ですが、衰退しているため、財運効果はのぞめません。引越しや旅行、出かける機会が多くなるでしょう。黄色系のマットなどでエネルギーを強化できます。この方位は一白生れの人に有利。三碧と四緑生れの方はブルー系のものを置くと良い。陰暦6月は交剣サツなので、争いごと、ケガや皮膚病に注意し黒酢を置く。引越しや、住宅の抽選を当てたいときはこの方位に銅馬を置きます。昇進、受験には文昌塔を置く。陰暦5月はパワーが最強になるため、財運、起業などには銅馬を置いてエネルギーを強化します。</p>